

財団法人

加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

平成20年度 年報

Annual Report 2008



Kato Memorial Bioscience Foundation

財団法人

加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

平成20年度 年報

Annual Report 2008

Kato Memorial Bioscience Foundation

目 次

はじめに	1
I. 平成20年度事業報告	
1. 概要	2
2. 年間の経緯	4
3. 助成事業	
(1) 2008年度助成事業のまとめ	5
(2) 第20回研究助成	5
(3) 第20回国際交流助成	8
(4) 第19回学会等開催助成	11
4. 平成19年度年報	11
5. 財団創立20周年記念式典	11
6. 第20回研究助成贈呈式	12
7. 平成20年度決算報告	14
II. 平成21年度事業計画	
1. 事業計画.....	18
2. 平成21年度事業予算	20
3. 平成21年度就任の財団役員等	21
III. 助成金受領者からの報告	
1. 第18回研究助成報告	22
2. 第20回国際交流助成報告	52
IV. 平成20年度の財団の運営と組織	
1. 設立趣意	84
2. 目的	85
3. 事業	85
4. 組織	85
5. 財団の概要	86
6. 平成20年度助成事業募集概要	86
7. 平成20年度財団役員等	88
おわりに	91

はじめに

理事長 平田 正



平成20年度は、12月23日に財団創立20周年を迎えた記念すべき年であるとともに話題の多い一年でもありました。先ず事務局ですが、4月には常務理事、11月には事務局長がそれぞれ交替し、新体制となりました。10月には出捐会社がこれまでの協和発酵工業(株)から協和発酵キリン(株)になりましたが、財団活動にはこれまで通りご支援いただけることになっております。

さて財団活動の柱であります平成20年度の助成事業においては、研究助成は28名の方に合計5,000万円、国際交流助成は32名の方に合計735万円、学会等開催助成は5件合計100万円を助成いたしました。また創立20周年特別枠の指定研究助成として3名の方に合計900万円贈呈しましたので、助成総額は6,735万円となりました。

平成21年3月には財団創立20周年記念式典を日本工業倶楽部会館にて、第20回研究助成贈呈式を併せて開催しました。関係者祝辞、贈呈式に続いて行われた記念講演会では、かつて当財団から研究助成を受け現在第一線でご活躍中の4名の先生方から、若手研究者向けメッセージも織り交ぜながら最先端の内容を分かり易くお話いただきました。記念式典には幅広い世代と分野から多くの関係者にご出席賜りました。

平成20年度は、理事・評議員の改選時期でしたが、かつてないほど多くの異動がありました。長年財団活動にご貢献いただいた理事の岡田吉美先生及び小田鈎一郎先生、並びに評議員の榊佳之先生及び柳田敏雄先生がご退任となり皆様名誉理事に就任されました。一方、評議員の郷通子先生及び垣添忠生先生には理事に、また福山透先生、堀之内末治先生、尾崎明夫先生、三箇山俊文先生には評議員にそれぞれご就任いただきました。さらに、平成20年度をもって山本一彦委員長を含む7名の選考委員の先生方が任期満了となり、7名の新選考委員の先生方が選任されました。引き続き先生方には財団活動へのご指導とご支援を賜りたく存じます。

誠に残念なお知らせですが、平成20年12月に評議員の鶴尾隆先生、平成21年1月に選考委員の内海成先生、平成21年7月に評議員の堀之内末治先生が逝去されました。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

平成21年度の財団活動では、通常の助成事業に加え、20周年記念誌の発行、新公益法人制度移行に向けての具体的準備が新年度の重点課題となります。

このたび財団創立20周年という一つの区切りを迎えましたが、我が国バイオサイエンスの振興に向けて新たな視点も加えて活動を継続、発展させたいと考えております。これまで財団活動にご尽力いただきました選考委員・評議員・役員の先生方、及び出捐会社をはじめとする関係者の皆様に改めて感謝いたします。今後とも皆様のご指導とご支援をお願い申し上げます。

I. 平成20年度事業報告

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

1. 概要

平成20年度の事業活動は、平成20年2月1日開催の第39回理事会・評議員会で決議・承認された平成20年度事業計画に基づき、寄附行為に掲げるバイオサイエンス分野の研究者に対する助成及び学会等の開催助成、並びに財団創立20周年記念式典などの諸事業を行った。

助成事業

研究助成は「メディカルサイエンス」「バイオテクノロジー」「奨励」の3区分に分けて募集を始めて3年目となった。さらに20周年記念特別枠として「癌分野における基礎から臨床への橋渡し研究」の募集も行い、これら合わせて252件の応募があり、全31件の研究助成を行なった。特別枠応募の35件を除いても3年前に比べて26%応募数が増加した。

国際交流助成の応募総数は前後期合わせて121件であり、32件(ただし内1件は決定後辞退)に対して助成を行なった。

学会等の開催助成は例年と同数の5件に対して行なった。

財団創立20周年記念事業

本年度は、昭和63年12月に財団が創立されてから20年目を迎えた。数年前から記念事業の検討を進め、「創立記念式典」の挙行と「20周年記念誌」の発刊準備を行なった。また前述の「20周年記念特別枠研究助成」を行なった。

平成21年3月6日に東京丸の内の日本工業倶楽部会館にて、創立20周年記念式典を第20回研究助成贈呈式を兼ねて挙行了。理事長挨拶、来賓祝辞に引き続き、贈呈式を行った。その後、当財団の歴代研究助成者の中から4名の先生による記念講演会を開催した。座長は財団理事・評議員が務めた。その後懇親会に移り、歓談を深めた。(記念式典参加者150名)

特例財団法人への移行

平成18年に公布された「公益法人制度改革関連法」により、当財団を含めて従来の財団法人は平成20年12月1日より「特例財団法人」に自動的に移行した。当財団は平成21年2月の第41回理事会・評議員会において、5年間の経過措置期間内に公益財団法人へ移行することが決議・承認された。

助成事業の見直し

各事業について、平成21年2月の第41回理事会・評議員会において見直しを行なった。平成21年度から運用を開始する。

研究助成については、以前は応募資格のある大学・研究機関をAB2つに区分して指定し、メデイカルサイエンス分野についてはABそれぞれ隔年の応募としていた。今回、これらの指定及びAB区分を廃止して全ての大学・研究機関が毎年応募可能とした。

また国際交流助成については、従来の公募スケジュールでは学会開催時期によっては事後の選考もありえた。今回、少なくとも渡航前に採択が決定できるように前期募集の時期を早めた。

学会等の開催助成については希望が多いことから、予算を倍増し、従来の5枠を10枠に増やすこととした。

主務官庁による実地検査

平成20年11月12日に、主務官庁である文部科学省研究振興局ライフサイエンス課による定期検査を受けた。早急に改善をすべき書面による指摘はなかったが、口頭による改善通知を受け、その後すみやかに改善を行なった。

役員、職員の異動

平成19年度をもって土井内徹常務理事が辞任したのに伴い、平成20年度に高橋充理事が新任され、常務理事(常勤)に就任した。また平成19年度末に退任した4名の選考委員に対し、平成20年4月に後藤由季子、坂口志文、戸井雅和、畠清彦、間野博行の5名が選考委員に就任した。

平成20年度終了をもって、岡田吉美理事、小田鈎一郎理事、榊佳之評議員、柳田敏雄評議員が退任し、名誉理事となった。また山本一彦、内海成、五味勝也、難波啓一、福山透、水澤英洋、依田幸司の7名の選考委員が平成21年3月末に任期満了(内海委員は死去)により退任したことを受け、平成21年度に新たに就任する7名の選考委員を選任した。

約3年間事務局長を務めた落合恵子が平成20年12月末に退任し、後任として江口有が11月より着任した。また奥村美香事務局員が平成20年4月より着任した。

2. 年間の経緯（平成20年4月～平成21年3月）

平成20年

- 4月21日 創立20周年記念事業 第3回企画委員会 於：学士会分館
- 4月25日 役員変更登記
- 5月20日 会計及び業務監査
- 5月19日 財団パンフレット更新
- 5月31日 第20回国際交流助成（前期）募集締切
- 6月 4日 第20回研究助成、特別枠研究助成および第20回国際交流助成（後期）募集開始
- 6月 6日 第40回理事会・評議員会 於：経団連会館
 - ① 平成19年度事業及び収支決算報告
 - ② 創立20周年記念特別枠研究助成選考小委員会委員選任
- 6月19日 資産総額変更登記
- 6月20日 文部科学省へ平成19年度事業状況報告書及び登記事項変更届提出
- 6月26日 第20回国際交流助成（前期）選考会 於：学士会分館
- 7月17日 第44回生命科学助成財団（LSF）懇談会出席
於：名古屋観光ホテル
- 8月15日 財団年報第9号（平成19年度）刊行
- 8月31日 第20回研究助成、特別枠研究助成および第20回国際交流助成（後期）募集締切
- 9月18日 第20回国際交流助成（後期）選考会 於：KKRホテル
- 10月10日 第20回研究助成振り分け会 於：KKRホテル
- 11月12日 文部科学省実地検査
- 11月19日 新公益法人制度に係る説明会（文部科学省主催）出席
- 12月 4日 第20回研究助成候補者選考会 於：経団連会館
特別枠研究助成候補者選考小委員会 於：経団連会館

平成21年

- 1月19・20日 第45回生命科学助成財団（LSF）懇談会出席
於：下田セントラルホテル
- 2月 5日 第41回理事会・評議員会 於：KKRホテル
 - ①第20回及び特別枠研究助成対象者の選出、②「学会等の開催助成」増枠と平成21年度助成対象の選出、③助成事業運用の一部変更、④評議員の改選、⑤理事及び監事の改選、⑥「名誉理事」称号の贈呈、⑦平成21年度～24年度選考委員の選出、⑧新公益法人制度の移行方針、⑨平成21年度事業計画並びに収支予算
- 2月 9日 （財）助成財団センター「期待される助成財団と移行申請の実務」セミナー出席
於：損保会館
- 2月24日 第21回国際交流助成（前期）募集開始
- 3月 6日 財団創立20周年記念式典、第20回研究助成贈呈式
於：日本工業倶楽部会館
- 3月31日 第21回国際交流助成（前期）募集締切
- （4月 6日 平成21年度事業計画及び収支予算書文部科学省提出）

3. 助成事業

(1) 2008年度助成事業のまとめ(2007年度対比)

助成事業	申請件数		助成件数		採択率(%)		予算(万円)		実績(万円)	
	2008年	2007年	2008年	2007年	2008年	2007年	2008年	2007年	2008年	2007年
メディカルサイエンス	89	70	11	11	12.4	15.7	2,200	2,200	2,200	2,200
バイオテクノロジー	87	78	11	11	12.6	14.1	2,200	2,200	2,200	2,200
奨励研究	41	34	6	6	14.6	17.6	600	600	600	600
研究助成	217	182	28	28	12.9	15.4	5,000	5,000	5,000	5,000
20周年特別枠 研究助成	35	—	3	—	8.6	—	900	—	900	—
前期	67	36	18	19	26.9	52.8	450	450	430	425
後期	54	38	14	16	25.9	42.1	300	300	304.9	315
国際交流助成	121	74	32	35	26.4	47.3	750	750	734.9	740
学会等開催助成	5	6	5	6	100	100	100	120	100	120
合計	—	—	—	—	—	—	6,750	5,870	6,734.9	5,860

(注) 2008年度助成件数には辞退者1名を含む。助成実績には辞退者に関わる諸経費を含めた。

(2) 第20回(2008年度)研究助成

①「研究助成」メディカルサイエンス分野(本年度はBグループのみ応募可能)、②「研究助成」バイオテクノロジー分野、③「奨励研究助成」(指定領域; A“生物機能を利用した物質生産技術に関わる研究”、B“機能的食品及びその素材に関わる研究”、C“環境・エネルギーに関わる研究”)に区分して募集した。また本年度は財団創立20周年記念事業の一つとして、「加藤記念財団創立20周年特別枠研究助成」(癌分野における基礎から臨床への橋渡し研究)について募集した。

平成20年6月～8月末(「特別枠」学会推薦は9月末まで)の期間募集した結果、全国の大学・研究機関から、①「研究助成」メディカルサイエンス分野は89件(前年度70件)、②「研究助成」バイオテクノロジー分野は87件(同78件)、③「奨励研究助成」は41件(同34件)の合計217件(同182件)の応募があった。そのうち女性研究者は43件(同37件)であった。一方、「特別枠」については、指定の3学会(日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会)の推薦を含めて合計35件(女性4件)の応募があった。

全選考委員(20名)による事前の一次審査をふまえ、選考委員会が平成20年12月4日(木)に経団連会館にて、選考委員15名出席で開催された。最初に他財団との重複助成に対する考え方を整理し、「有望な若手研究者を幅広く支援する」という財団方針に則り、当財団の助成額を上回る助成金を本年度他財団から受けることが確定している候補者は、高評価であっても選外とする事が確認された。

その結果、①「研究助成」メディカルサイエンス分野11名、②「研究助成」バイオテクノロジー分野11名、③「奨励研究助成」6名の候補者28名が選出された。

また「特別枠」についても同日、選考委員の代表5名による小委員会を開催し、3名の候補者が選出された。

平成21年2月6日(金)に開催された第41回理事会・評議員会で、特別枠を含む助成対象者合計31名が決定された。

平成21年3月6日(金)に日本工業倶楽部会館で開催した財団創立20周年記念式典で贈呈式を行い、「研究助成」1件当たり200万円及び「奨励研究助成」1件あたり100万円、および「特別枠研究助成」1件あたり300万円の助成金目録及び記念の盾を贈呈した。

第20回加藤記念研究助成受領者名簿

1)「研究助成」メディカルサイエンス分野(11名)

(1件200万円)

氏名	所属機関名	職名	研究題目
大石由美子	東京大学大学院医学系研究科 システム疾患生命科学による 先端医療技術開発	特任助教	転写因子の翻訳後修飾を介した代謝負荷応答機構の解明と創薬標的としての展開
柏木 明子	弘前大学農学生命科学部 生物資源学科 柏木研究室	准教授	実験室内進化系を用いたRNAウイルスの進化に関する研究
北畠 康司	大阪大学大学院医学系研究科 小児科学講座	医員	Wnt阻害因子sFRP3による側頭葉てんかんの発症機序の解明と新たな治療法の開発
関根 勇一	北海道大学大学院薬学研究院 医療薬学分野衛生化学研究室	助手	低分子量二重特異性ホスファターゼによるSTAT3活性制御機構の解明
鄒 鶴	岩手医科大学薬学部 神経科学講座	助手	アミロイドβ蛋白の脳内蓄積におけるアンギオテンシン変換酵素(ACE)の意義
竹ヶ原宜子	大阪大学微生物病研究所 感染病態分野	助教	細胞融合を担う分子メカニズムの時空間的解明
西川 博嘉	三重大学大学院医学系研究科 がんワクチン治療学	講師	制御性T細胞抑制解除による新規がんワクチン療法開発
HEISSIG BEATE	東京大学医科学研究所 フロンティア研究拠点	特任助教	血液線維素溶解系亢進に伴う組織再生促進機構の解明
坂内 博子	理化学研究所脳科学総合研究センター 発生神経生物研究チーム	基礎科学 特別研究員	GABA作動性シナプス安定化機構の解明とてんかん治療のための創薬ターゲットの探索
福田 光則	東北大学大学院生命科学研究科 膜輸送機構解析分野	教授	新規Rab32/38結合蛋白質によるメラノソーム成熟機構の解析
眞部 孝幸	藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 遺伝子発現機構学研究分野	講師	新規RNA結合蛋白質HMGA1が誘導する孤発性疾患での異常スプライシングの解明

2)「研究助成」 バイオテクノロジー分野(11名)

(1件200万円)

氏名	所属機関名	職名	研究題目
井沢 真吾	京都大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻 エネルギー変換細胞学研究室	助教	醸造過程における酵母オルガネラ形態の時空間的解析と分子育種への活用
奥島 葉子	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 植物組織形成学講座	助教	高等植物の表皮由来脂質シグナルを介した形態形成機構の解析
小澤 岳昌	東京大学大学院理学系研究科 化学専攻分析化学研究室	教授	生きたマウス個体内のタンパク質間相互作用を可視化する発光イメージング法の開発
加藤 明宣	近畿大学農学部バイオサイエンス学科 分子生物学研究室	講師	細菌病原性調節ネットワークを標的とするペプチド薬の創製
金尾 忠芳	岡山大学 自然生命科学支援センター	助教	無機硫黄化合物の酵素化学の確立
神戸 大朋	京都大学大学院 生命科学研究科 生体情報応答学分野	准教授	糖鎖合成酵素の活性化に必要な金属トランスポーターの同定と物質生産への応用
北 将樹	筑波大学大学院 数理物質科学研究科 化学専攻生物有機化学研究室	講師	陸棲哺乳類の麻痺性神経毒の構造と機能
朽尾 豪人	京都大学大学院工学研究科 分子工学専攻 生体分子機能化学講座	准教授	多核多次元NMRによる生きた細胞内蛋白質の構造解析法の開発
中島 信孝	産業技術総合研究所 ゲノムファクトリー研究部門	研究員	アンチセンスRNAによる大腸菌代謝経路の改変とピルビン酸の大量生産
野田 健司	大阪大学微生物病研究所 細胞制御分野	准教授	オートファジー活性を制御する新規薬剤スクリーニング法の開発
半田 直史	東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻 バイオ医療知財分野	特任助教	ゲノムに潜む全く新しい構造と機能をもつDNaseファミリーの探索と解析

3)「奨励研究助成」(6名)

(1件100万円)

氏名	所属機関名	職名	研究題目
加治屋勝子	山口大学大学院医学系研究科 器官制御医科学講座 生体機能分子制御学	助教	血管緊張異常の分子機構と植物ポリフェノール類による選択的阻害機構の解明
柴田 貴広	名古屋大学大学院生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 生命機能化学講座食品機能化学研究分野	助教	食品由来の神経分化シグナル活性化因子の探索と機能解析
善藤 威史	九州大学大学院農学研究院 生物機能科学部門 微生物工学分野	助教	乳酸菌における多成分抗菌ペプチドの生産制御機構の解明とその利用
谷 修治	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 応用生命科学専攻生命機能化学分野 生体分子機能学講座	助教	バイオマスの完全酵素糖化に向けたセルラーゼ大量発現系の構築
豊岡 公德	理化学研究所 植物科学研究センター 機能開発研究グループ	研究員	植物における分泌に関与する4回膜貫通タンパク質の機能解析と物質生産への応用
松永 茂樹	東京大学大学院薬学系研究科 分子薬学専攻 有機合成化学教室	講師	有用物質生産における環境負荷低減・省エネルギーを指向した新規協奏機能触媒の開発

4)「創立20周年記念特別枠研究助成」(3名)

(1件300万円)

氏名	所属機関名	職名	研究題目
上田 龍三	名古屋市立大学大学院 医学研究科腫瘍・免疫内科学	教授	ヒト免疫担当細胞移入NGOマウスを用いた免疫療法評価システムの確立
尾池 雄一	熊本大学大学院医学薬学研究部 (医学系) 成育再建・移植 医学講座 分子遺伝学分野	教授	新規血管・リンパ管新生因子 ANGPTL2 血中動態とがん進展・転移・予後の連関解析
森 正樹	大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科	教授	癌幹細胞を標的とした新しい消化器癌 根治療法の開発研究

(3) 第20回(2008年度)国際交流助成

平成20年度は前期応募者67名より18名、後期応募者54名より14名、合計32名に対し審査・選考のうえ、合計750万円(前期430万円、後期320万円)を助成した。ただし後期助成者のうち1件について、贈呈後にやむを得ない事情による辞退があったため、諸経費を差し引いた額の返還を求めた。従って助成者は後期13名となり、助成金支出は734万8716円となった。下記名簿は辞退者を除いている。

1) 第20回加藤記念国際交流助成(前期)受領者(18名)

氏名	所属機関	職名	学会名	国、州	助成金 (万円)
市川 幹	東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科	助教	15th International RUNX Workshop	マサチュー ーセッツ	25
岩倉 浩	京都大学医学部附属病院 探索医療センター	助教	ENDO2008, The Endocrine Society 90th Annual Meeting	カリフォル ニア	20
屋 万栄	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 健康科学専攻	大学院生	XXII International Congress of the Transplantation Society	オーストラ リア: シ ドニー	20
島津 朋之	東北大学大学院 農学研究科 生物産業創成科学専攻	大学院生	American Dairy Science Association-American Society of Animal Science 2008	インディ アナ	25
竹花 佑介	自然科学研究機構 基礎生物学研究所	日本学術 振興会特 別研究員	The 8th International Meeting on Zebrafish Development and Genetics	ウイスコン シン	25
富谷 朗子	海洋研究開発機構・地球 内部変動研究センター	研究員	The 8th European Nitrogen Fixation Conference	ベルギー: ゲント	30
中西ゆう子	富山県立中央病院 臨床病理科	臨床病理 科副医長	The 43rd Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver (EASL)	イタリア: ミラノ	25
中原 広道	長崎国際大学薬学部 薬学科	助手	22nd Conference of the European Colloid and Interface Society	ポーランド: クラコフ	30
西村 智	東京大学大学院医学系研 究科循環器内科	研究員	15th International Vascular Biology Meeting	オーストラ リア: シドニー	20
野田 悟子	理化学研究所環境分子科 学研究推進グループ	協力 研究員	The International Symposium on Microbial Ecology (ISME12)	オーストラ リア: ケアンズ	15
林 良樹	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 岡崎統合バイオサイエンスセンター	助教	The 13th Gordon Research Conference "Proteoglycans"	ニューハン プシャー	25
福田 康弘	神戸大学大学院 理学研究科生物学専攻	学術推進 研究員	Protist2008 (ISOP 59th and ISEP17th complex conference)	カナダ: ノ バスコシア	20
升田 博隆	慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室	助教	24rd Annual Meeting of The European Society of Human Reproduction and Embryology	スペイン: バルセロナ	30
松尾 拓哉	名古屋大学 遺伝子実験施設	研究員	The 13th International Chlamydomonas Conference	フランス: イエール	30
森下 大輔	東京大学大学院・薬学研 究科	大学院生	Keystone Symposia "Stem Cells, Cancer and Aging"	シンガポ ール	15
谷口 俊介	筑波大学大学院生命環境科 学研究科若手イニシアティ ブ下田臨海実験センター	助教	Developmental Biology of the Sea Urchin XVIII	マサチュ ーセッツ	25
山田 和彦	物質・材料研究機構	特別 研究員	Gordon Research Conference "Computational Aspects- Biomolecular NMR"	イタリア: Barga, Lucca地方	30
由田和津子	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科	リサーチ フェロー	Plant Biology 2008	メキシコ: メリダ	20

2) 第20回加藤記念国際交流助成(後期)受領者(13名)

氏名	所属機関	職名	学会名	国、州	助成金 (万円)
浅井理恵子	東京大学大学院 医学系研究科 分子細胞生物学	大学院生	American Heart Association Scientific Sessions 2008	ルイジアナ	25
猪原 匡史	京都大学大学院 医学研究科 臨床神経学神経内科	助教	Vas-Cog 2009 : The International Society for Vascular Behavioural and Cognitive Disorders	シンガポ ール	15
川崎 良	山形大学医学部 情報構造統御講座 視覚病態学	客員 研究員	European Association for Vision and Eye Research (EVER) 2008	スロベニ ア : ポル トロズ	30
佐波 理恵	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 発生工学研究室	特任 研究員	Cold Spring Harbor Laboratory "Germ Cells"	ニューヨ ーク	25
高梨 琢磨	森林総合研究所 森林昆虫研究領域	主任 研究員	XIIth Invertebrate Sound and Vibration Meeting	フランス: ツールズ	30
高野 倫一	東京海洋大学 ゲノム科学講座	博士 研究員	Plant and Animal Genome XVII Conference	カリフォル ニア	20
中川 俊徳	京都大学大学院 医学研究科 腫瘍生物学講座	研究員	Cold Spring Harbor Laboratory "Germ Cells"	ニューヨ ーク	25
西 裕志	東京大学大学院 医学系研究科 腎臓内科学	大学院生	Renal Week 2008, American Society of Nephrology	ペンシル ベニア	25
西原 秀典	東京工業大学大学院 生命理工学研究科 生体システム専攻	助教	2nd International Conference/ Workshop on Genomic Impact of Eukaryotic Transposable Elements	カリフォル ニア	20
野地 智法	東京大学医科学研究所 炎症免疫学分野	博士 研究員	2nd vaccine global congress	マサチュ ーセッツ	25
前田 礼男	東京理科大学 基礎工学部 生物工学科	助教	50th Annual Drosophila Research Conference	イリノイ	25
八幡 直樹	国立精神・神経センター 神経研究所	流動 研究員	The 38th annual meeting of the Society for Neuroscience	ワシント ンDC	20
林原絵美子	東京薬科大学薬学部 病原微生物学教室	助教	11th Western Pacific Congress on Chemotherapy and Infectious Diseases	台湾: 台北	10

(4) 第19回(2008年度)学会等開催助成

平成20年度は下記の5件の学会に対して助成を実施した。助成金額は1件20万円とし、合計100万円を助成した。

会議名	参加者数	推薦者	申請者	開催期日	開催場所
第62回日本栄養・食糧学会大会	海外 10名 国内 3000名	香川 靖雄 理事	女子栄養大学 岡崎 光子	2008年 5月2日～4日	女子栄養大学 (埼玉・坂戸市)
日本分子生物学会 第8回春季シンポジウム	海外 若干名 国内 550名	長田 重一 評議員	北海道大学 畠山 昌則	2008年 5月26日～27日	ロイトン札幌
第28回札幌がんセミナー 国際シンポジウム	海外 20名 国内 135名	三品 昌美 評議員	東京大学 宮園 浩平	2008年 6月26日～27日	北海道大学 学術交流会館
第10回国際樹状細胞 シンポジウム	海外 250名 国内 250名	岡田 吉美 理事	慶應義塾大学 小安 重夫	2008年 10月1日～5日	神戸国際 会議場
日英ワークショップ「医療をつくる放線菌のゲノム科学－その示唆と応用」	海外 10名 国内 100名	別府 輝彦 理事	日本大学 上田 賢志	2008年 10月31日～ 11月1日	日本大学会館 (市ヶ谷)

4. 平成19年度年報

「平成19年度 財団年報」を8月15日付で発行した。約700部を理事・監事・評議員のほか、名誉理事、選考委員、主務官庁(文部科学省)、出捐会社関係者、前年度の研究助成対象者、大学、他財団等に配布した。

平成19年度版から版形をB5版からA4版に大きくしたほか、研究報告書の書式を統一し、読みやすさに工夫を凝らした。

5. 財団創立20周年記念式典

平成21年3月6日(金)13時から加藤記念財団創立20周年記念式典を、第20回研究助成贈呈式を兼ねて東京丸の内の日本工業倶楽部会館にて挙行了。理事長挨拶の後、来賓の文部科学省研究振興局ライフサイエンス課菱山豊課長(川上一郎氏代読)および協和発酵キリン株式会社松田讓社長より祝辞を頂いた。

研究助成贈呈式の後、歴代助成者の中から4名の先生による記念講演が行なわれた。

審良静男 大阪大学免疫学フロンティア研究センター拠点長

「自然免疫による病原体認識」

座長：岸本忠三 大阪大学大学院生命機能研究科教授(財団理事)

大隅典子 東北大学大学院医学系研究科教授

「神経新生のメカニズム－脳細胞は一生作られる－」

座長：三品昌美 東京大学大学院医学系研究科教授(財団評議員)

堀之内末治 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

「『非微生物型』機能性化合物の微生物による発酵生産」

座長：森謙治 東京大学名誉教授（財団理事）

浅野泰久 富山県立大学生物工学研究センター所長

「新しい酵素機能の開拓と産業利用」

座長：木村光 京都大学名誉教授（財団理事）

式典終了後、記念祝賀会を行った。木下名誉会長の挨拶に始まり、財団関係者、助成者、一般参加者等の歓談が続いた後、小田理事の挨拶で祝賀会は終了した。

なお本式典は広く広報し、招待者のほか、一般からの参加を受付けた。事前参加登録者は招待者、一般参加者合わせて約170名であり、当日は雨天にもかかわらず約150名の出席があった。（来賓2名、記念講演演者4名、助成受領者31名、新旧財団役員等36名、歴代助成者7名、その他招待者12名、財団旧職員4名、出捐会社関係者41名等）

なお、記念式典の概要および写真は財団創立20周年記念誌に掲載している。

主な出席者（上記以外、敬称略）

財団元役員等：木下祝郎（名誉会長）、大澤利昭（名誉理事）、田中正生、鈴木武夫、岡 徹夫、小室敏雄、土井内徹（以上、元常務理事）、金澤一郎、寺田雅昭、中野洋文（以上、元評議員）、左右田健次、熊谷英彦、永井和夫、吉田 稔（以上、元選考委員）、白幡公勝、持田顕一、落合恵子（以上、元事務局長）

現財団役員等：平田 正（理事長）、高橋 充（常務理事）、大塚榮子、大村 智、岡田吉美、小田鈎一郎、香川靖雄、岸本忠三、木村 光、別府輝彦、森 謙治（以上、理事）、伊藤 醇（監事）、北原 武、垣添忠生、三品昌美（以上、評議員）、山本一彦、山根久和、久保田紀久枝、五味勝也、畠 清彦、福山 透、依田幸司（以上、選考委員）

出捐会社関係：奈良 高、古屋 晃、伊藤菁莪、手柴貞夫、花井陳雄、三箇山俊文、高柳昌生

6. 第20回研究助成贈呈式

研究助成贈呈式は例年3月に開催しているが、本年度は財団創立20周年記念式典と合わせて行った。贈呈式では特別枠研究助成を含む全31名（3名代理出席）に対して助成金目録及び記念の盾を理事長より贈呈した。創立20周年記念式典と同時開催であったことから例年になく参加者が多く、助成者にとっても多くの分野の違う研究者や実績のあるベテラン研究者と歓談する機会となった。

（1）選考経過報告

選考委員長 山本 一彦

創立20周年記念特別枠研究助成選考経過

選考委員長を務めております東京大学大学院医学系研究科の山本でございます。「財団創立20周年

記念特別枠研究助成」を受けられる3名の皆様、おめでとうございます。

さて本特別枠研究助成は、財団20周年記念事業の一つとして、通常の研究助成とは異なる区分で募集しました。すなわち、「癌分野における基礎から臨床への橋渡し研究」と研究課題を指定し、また当財団の通常の研究助成が年齢制限を設けて若手を対象としているのに対し、本助成は年齢制限を設けずに募集しました。

その結果、3学会からの推薦および一般応募を含めて、また若手から実績ある方まで幅広い層から、合計35件の応募がありました。贈呈者が3名ですので12倍近い倍率となりました。

このような状況に対し、専門分野に近い選考委員5名からなる小委員会を別に設けて審査しました。厳正な審査を行うため、各選考委員が35件全てを予め書面審査し、その上で一同会した小委員会で十分審議しました。審議の過程では、公正を期すため無記名投票する場面もありました。

今回の指定研究課題は、近年国レベルでも重要課題と認識されています。本助成への応募状況を見ましても、この分野の研究がいかに活発に行われているかを物語るものと思われます。

最後に、財団の記念すべき20周年記念特別枠研究助成を受けられる皆様が助成金を有効に活用して研究目的を達成されることを祈念しまして、「創立20周年記念特別枠研究助成」選考経過報告とさせていただきます。

第20回加藤記念研究助成選考経過

研究助成を受けられる28名の皆様、おめでとうございます。

さて第20回加藤記念研究助成の応募数は、メディカルサイエンス分野89件、バイオテクノロジー分野87件、奨励研究41件で、総数217件でした。これは一昨年対比で46件増加、昨年対比で35件増加でした。また、女性研究者からの応募も着実に増加し、全体で43件となりました。3年前に募集区分を分けて応募し易くしたこと、また若手研究者を対象とする奨励研究助成を設けたことが応募数増加につながったものと思われます。

各申請について、20名の選考委員が分野別に複数で担当して書面審査を行い、次に選考委員が一堂に会して十分な審議を行いました。その結果、研究助成として、メディカルサイエンス分野11件、バイオテクノロジー分野11件、奨励研究6件を採択致しました。従いまして全体では競争率が8倍近い難関であったということになります。

審査に当たりましては、加藤記念研究助成の精神であります独創的、先駆的な研究を支援することを念頭におきました。また、多様な研究施設からの人材発掘、研究室の立ち上げ状況、女性研究者の支援、他財団との重複助成などにも留意しました。

研究助成を受けられる皆様には助成金を有効に活用して研究目的を達成し、バイオサイエンスの発展に貢献していただきたいと思います。

若手研究者を長年にわたり支援している加藤記念バイオサイエンス研究振興財団にあらためて敬意を表しますとともに、助成を受けられる皆様の研究の更なる発展を祈念しまして、「第20回加藤記念研究助成」選考経過報告とさせていただきます。

7. 平成20年度収支決算報告

収 支 計 算 書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	6,500,000	6,889,249	△ 389,249	
② 受取寄付金	90,000,000	90,000,000	0	
③ 受取利息	50,000	124,851	△ 74,851	
事業活動収入計	96,550,000	97,014,100	△ 464,100	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
研究助成	59,000,000	59,000,000	0	
国際交流助成	7,500,000	7,348,716	151,284	
普及啓発費	6,000,000	3,361,885	2,638,115	
事業促進費	10,500,000	9,540,172	959,828	
年報出版費	1,000,000	1,182,778	△ 182,778	
事業費支出計	84,000,000	80,433,551	3,566,449	
② 管理費支出				
会議費	1,500,000	1,057,361	442,639	
旅費交通費	4,000,000	2,798,257	1,201,743	
人件費	3,600,000	3,600,000	0	
什器備品費	200,000	0	200,000	
通信費・消耗品費等	1,500,000	1,411,759	88,241	
管理費支出計	10,800,000	8,867,377	1,932,623	
事業活動支出計	94,800,000	89,300,928	5,499,072	
事業活動収支差額	1,750,000	7,713,172	△ 5,963,172	
II 投資活動収支の部	0	0	0	
III 財務活動収支の部	0	0	0	
IV 予備費支出	500,000	0	500,000	
当期収支差額	1,250,000	7,713,172	△ 6,463,172	
前期繰越収支差額	12,900,000	13,228,978	△ 328,978	
次期繰越収支差額	14,150,000	20,942,150	△ 6,792,150	

財 産 目 録

平成21年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	金 額	金 額
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高	172,069		
普通預金 みずほ銀行丸の内支店	4,064,296		
みずほ銀行相模大野支店	33,802,598		
三菱東京UFJ銀行 新橋支店	2,938,858		
流動資産合計		40,977,821	
2 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金 三菱東京UFJ銀行 新橋支店	81,000,000		
定期預金 三菱UFJ信託銀行本店	50,000,000		
三菱東京UFJ銀行 新橋支店	175,000,000		
投資有価証券 みずほコーポレート 銀行債券	100,000,000		
農林中央金庫債券	300,000,000		
基本財産合計	706,000,000		
固定資産合計		706,000,000	
資産合計			746,977,821
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金 研究助成、会議費等に 対する未払額	20,035,671		
流動負債合計		20,035,671	
2 固定負債	0	0	
負債合計			20,035,671
正味財産			726,942,150

正味財産増減計算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	6,889,249	6,126,425	762,824
② 受取寄付金			
受取寄付金	90,000,000	72,000,000	18,000,000
③ 雑収益			
受取利息	124,851	160,140	△ 35,289
経常収益計	97,014,100	78,286,565	18,727,535
(2) 経常費用			
① 事業費	80,433,551	69,995,826	10,437,725
研究助成	59,000,000	50,000,000	9,000,000
国際交流助成	7,348,716	7,400,000	△ 51,284
普及啓発費	3,361,885	1,200,000	2,161,885
事業促進費	9,540,172	10,627,543	△ 1,087,371
年報出版費	1,182,778	768,283	414,495
② 管理費	8,867,377	8,875,857	△ 8,480
会議費	1,057,361	1,061,325	△ 3,964
旅費交通費	2,798,257	2,863,312	△ 65,055
人件費	3,600,000	3,600,000	0
通信費・消耗品費等	1,411,759	1,351,220	60,539
経常費用計	89,300,928	78,871,683	10,429,245
当期経常増減額	7,713,172	△ 585,118	8,298,290
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	7,713,172	△ 585,118	8,298,290
一般正味財産期首残高	13,228,978	13,814,096	△ 585,118
一般正味財産期末残高	20,942,150	13,228,978	7,713,172
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	706,000,000	706,000,000	0
指定正味財産期末残高	706,000,000	706,000,000	0
III 正味財産期末残高	726,942,150	719,228,978	7,713,172

貸借対照表

平成21年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	40,977,821	18,399,202	22,578,619
流動資産合計	40,977,821	18,399,202	22,578,619
2 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	81,000,000	0	81,000,000
定期預金	225,000,000	306,000,000	△ 81,000,000
投資有価証券	400,000,000	400,000,000	0
基本財産合計	706,000,000	706,000,000	0
固定資産合計	706,000,000	706,000,000	0
資産合計	746,977,821	724,399,202	22,578,619
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	20,035,671	5,170,224	14,865,447
流動負債合計	20,035,671	5,170,224	14,865,447
負債合計	20,035,671	5,170,224	14,865,447
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	706,000,000	706,000,000	0
指定正味財産合計	706,000,000	706,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(706,000,000)	(706,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産	20,942,150	13,228,978	7,713,172
(うち基本財産への充当額)	(0)		(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)		(0)
正味財産合計	726,942,150	719,228,978	7,713,172
負債及び正味財産合計	746,977,821	724,399,202	22,578,619

II. 平成21年度事業計画

平成21年度の事業計画は、平成21年2月5日(金)開催の第41回理事会・評議員会にて審議の上、決議・承認された。主要事業は次の通りである。

1. 事業計画

(1) 第21回(2009年度)研究助成事業

1)「研究助成」

助成対象者：メディカルサイエンス分野およびバイオテクノロジー分野の研究者

(応募年齢：男性40才以下、女性45才以下)

助成金額：総額4,000万円(1件200万円、各分野10件ずつ)

推薦者：申請者の所属する機関の長、又は理事・評議員

応募期間：平成21年6月初旬～8月31日

選考委員会：平成21年12月

助成金の贈呈式：平成22年3月5日(金)

2)「指定研究助成」

研究課題：「癌分野における基礎研究から臨床への橋渡し研究(Translational Research)」

助成対象者：指定研究課題に該当する研究者(応募年齢：男性45才以下、女性50才以下)

助成金額：総額1,000万円(1件200万円、5件)

推薦者：申請者の所属する機関の長、又は理事・評議員

応募期間：平成21年6月初旬～8月31日

選考委員会：平成21年12月

助成金の贈呈式：平成22年3月5日(金)

(2) 第21回(2009年度)国際交流助成事業

助成対象者：平成21年4月1日から平成22年3月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会等で自己の研究成果を発表する日本国内在住の研究者。(応募年齢：35才以下。医歯学系の大学卒業者は37才以下。)

助成金額：前後期 総額750万円

推薦者：申請者の所属する機関の長、または上長

応募期間：前期 平成21年2月～3月末(4月～9月までの学会対象)

後期 平成21年4月～8月末(10月～翌年3月までの学会対象)

選考委員会：前期 平成21年4月

後期 平成21年9月

(注) 第22回国際交流助成については、前期の応募期間を平成22年1月から2月末までとし、選考委員会を3月に開催する予定とする。

(3) 第20回学会等の開催助成事業

募 集 方 法 : 理事・評議員の推薦による

助 成 金 額 : 総額200万円(1件20万円程度、10件程度)

助 成 対 象 : 国内で開かれるバイオサイエンス分野の学会等
(参加者数は原則1,000名以下)

(4) 財団年報(第10号)発行

目 的 : 財団の平成20年度の活動の記録と情報公開

予 算 : 100万円

発 行 者 : 財団理事長

編 集 者 : 財団事務局

(5) 財団創立20周年記念誌発行

目 的 : 財団の創立20周年を記念し、20年間の歩みを記すとともに、創立記念式典および記念講演の内容を記録する。

予 算 : 400万円

発 行 者 : 財団理事長

編 集 者 : 財団事務局

2. 平成21年度事業予算

平成21年度収支予算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：円)

科 目	平成21年度 予算額	平成20年度 予算額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	6,200,000	6,500,000	△300,000	
② 受取寄付金	76,000,000	90,000,000	△14,000,000	
③ 受取利息	60,000	50,000	10,000	
事業活動収入計	82,260,000	96,550,000	△14,290,000	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
研究助成	50,000,000	59,000,000	△9,000,000	
国際交流助成	7,500,000	7,500,000	0	
普及啓発費	3,000,000	6,000,000	△3,000,000	
事業促進費	11,000,000	10,500,000	500,000	
年報出版費	5,000,000	1,000,000	4,000,000	
事業費支出計	76,500,000	84,000,000	△7,500,000	
② 管理費支出				
会議費	1,500,000	1,500,000	0	
旅費交通費	3,500,000	4,000,000	△500,000	
人件費	3,600,000	3,600,000	0	
什器備品費	200,000	200,000	0	
通信費・消耗品費等	1,500,000	1,500,000	0	
管理費支出計	10,300,000	10,800,000	△500,000	
事業活動支出計	86,800,000	94,800,000	△8,000,000	
事業活動収支差額	△4,540,000	1,750,000	△6,290,000	
II 投資活動収支の部	0	0	0	
III 財務活動収支の部	0	0	0	
IV 予備費支出	500,000	500,000	0	
当期収支差額	△5,040,000	1,250,000	△6,290,000	
前期繰越収支差額	14,150,000	12,900,000	1,250,000	
次期繰越収支差額	9,110,000	14,150,000	△5,040,000	

3. 平成21年度就任の財団役員等

平成21年4月1日付

理事	垣添 忠生	国立がんセンター名誉総長 日本対がん協会会長
(非常勤)	郷 通子	情報・システム研究機構理事
評議員	尾崎 明夫	協和発酵バイオ(株)常務取締役
(非常勤)	福山 透	東京大学大学院薬学研究科教授
	堀之内末治	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	三箇山俊文	協和発酵キリン(株)執行役員
選考委員	岩坪 威	東京大学大学院医学系研究科教授
(非常勤)	長田 裕之	理化学研究所基幹研究所ケミカルバイオロジー研究領域長
	鈴木 啓介	東京工業大学大学院理工学研究科教授
	中村 春木	大阪大学蛋白質研究所教授
	中山 亨	東北大学大学院工学研究科教授
	西山 真	東京大学生物生産工学研究センター教授
	三森 経世	京都大学大学院医学研究科教授

Ⅲ. 助成金受領者からの報告

1. 第18回研究助成報告（研究期間：平成19年4月～平成21年3月）

当財団では、助成対象となった2年間の研究の終了後速やかに成果報告を受けている。以下に第18回（平成18年度）の研究助成金受領者一覧および報告書を掲載する。（所属は平成21年4月現在）

なお、この研究報告内容は国立情報研究所の民間助成研究成果データベースに登録されている。

第18回研究助成受領者一覧

① メディカルサイエンス分野

氏名	所属機関	研究題目	頁
大内 仁	ロチェスター大学 医学部	心筋 alpha 1 アドレナリン受容体刺激による CaMKII の活性制御機構の解明	24
木下 彩栄	京都大学大学院医学研究科	アルツハイマー病原因遺伝子プレセニリンの基質切断機構の解明	25
黒川 峰夫	東京大学医学部附属病院	白血病幹細胞の生成機構の解明と治療標的の同定	26
佐々木雄彦	秋田大学医学部	リン脂質ホスファターゼによる大脳基底核神経細胞の制御	27
渋谷 和子	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	LFA-1/DNAM-1 複合体シグナルによる Th1 分化の分子機構	28
棚谷 綾	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科	核内受容体機能制御仮説の実験的実証と医薬リード創製	29
中矢 正	北海道大学大学院 薬学研究院	APP 結合分子 FE65 の核内機能の解明	30
波多 賢二	大阪大学大学院歯学研究科	軟骨細胞分化過程における Sox9 転写ファクトリーの制御機構の解明	31
藤永由佳子	大阪大学微生物病研究所	ボツリヌス神経毒素複合体の腸管上皮バリア通過機構に関する基礎的および応用的研究	32
藤本 穰	(独) 医薬基盤研究所 免疫シグナルプロジェクト	サイトカインシグナル阻害分子 SOCS の Th 分化における役割と免疫疾患との関連	33
星野 真理	(独) 理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター	新規膜結合型 E3 ユビキチンリガーゼファミリーによる新しい免疫制御機構の解明	34

② バイオテクノロジー分野

氏名	所属機関	研究題目	頁
上杉 志成	京都大学化学研究所	脂肪合成を阻害する小分子	35
大塚 文男	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科	生殖内分泌のキーファクター BMP の生理活性メカニズムの解明とその応用へ	36
嘉糠 洋陸	帯広畜産大学 原虫病研究センター	マラリア媒介蚊の CO ₂ センシングメカニズムの解明	37
佐藤ちひろ	名古屋大学生物機能開発 利用研究センター	脳機能に関わるシアル酸重合体と相互作用する分子の同定とその応用基盤の確立	38
鈴木 章弘	佐賀大学農学部	マメ科植物の根粒着生に及ぼす光シグナルの影響	39
田中 克典	関西学院大学理工学部	高等植物における SUMO 翻訳後修飾機構の基盤的研究	40
田淵 光昭	川崎医科大学分子生物学2教室	酵母を用いた病原菌エフェクターの網羅的スクリーニングシステムの開発	41
西村 栄美	東京医科歯科大学 難治疾患研究所	ニッチの分子基盤に着目した幹細胞の維持機構の解明	42
東島 眞一	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター	神経細胞可視化手法によるゼブラフィッシュ脊髄神経回路網の解析	43
廣田 俊	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科	光応答性修飾基を用いた蛋白質-ペプチド複合体の光制御とその利用	44
若杉 桂輔	東京大学大学院 総合文化研究科	蛋白質間相互作用に着目したトリプトファン tRNA 合成酵素の新規機能の探索	45

③ 奨励研究助成

氏名	所属機関	研究題目	頁
佐野 健一	理化学研究所基幹研究所	安定したタンパク質固層化技術開発に向けたペプチド/無機材料インターフェースの解明	46
高野 英晃	日本大学生物資源科学部	微生物機能の光誘導を制御する新しい転写因子 LitR の機能と役割に関する研究	47
寺坂 和祥	名古屋市立大学大学院 薬学研究科	植物配糖体輸送における ABC タンパク質の機能解明とその有用物質生産への利用	48
長阪 玲子	東京海洋大学海洋科学部	ヒドロキシ桂皮酸ステロールエステルによるアディポネクチン発現増強作用の機構解明	49
西野 邦彦	大阪大学産業科学研究所	多剤耐性菌をターゲットとした新規抗菌薬スクリーニングデバイスの開発	50
福島亜紀子	女子栄養大学栄養学部	カルシウム吸収促進するオリゴ糖(機能性食品)の作用機構に関する遺伝子レベルの解析	51

2. 第20回国際交流助成報告

国内で実施された研究の成果を、平成20年4月から21年3月の間に海外で開催された学会等で発表する研究者に対して、渡航費等の助成を行なった。以下にその受領者一覧および参加報告書を掲載する。

第20回国際交流助成受領者一覧

前期(4月～9月)

氏名	所属機関	学会名	頁
市川 幹	東京大学医学部附属病院	15th International RUNX Workshop	54
岩倉 浩	京都大学医学部附属病院	ENDO2008, The Endocrine Society 90th Annual Meeting	55
屋 万栄	鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター	XXII International Congress of the Transplantation Society	56
島津 朋之	東北大学大学院農学研究科	American Dairy Science Association-American Society of Animal Science 2008 Joint Annual Meeting	57
竹花 佑介	自然科学研究機構基礎生物学研究所	The 8th International Meeting on Zebrafish Development and Genetics	58
富谷 朗子	海洋研究開発機構地球内部変動研究センター	The 8th European Nitrogen Fixation Conference	59
中西ゆう子	富山県立中央病院	The 43rd Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver (EASL)	60
中原 広道	長崎国際大学薬学部	22nd Conference of the European Colloid and Interface Society	61
西村 智	東京大学大学院医学系研究科	15th International Vascular Biology Meeting	62
野田 悟子	理化学研究所環境分子分解科学研究チーム	The International Symposium on Microbial Ecology (ISME12)	63
林 良樹	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター	The 13th Gordon Research Conference "Proteoglycans"	64
福田 康弘	神戸大学大学院理学研究科	Protist2008 (ISOP 59th and ISEP 17th complex conference)	65
升田 博隆	慶應義塾大学医学部	24rd Annual Meeting of The European Society of Human Reproduction and Embryology	66
松尾 拓哉	名古屋大学遺伝子実験施設	The 13th International Chlamydomonas Conference	67

森下 大輔	東京大学大学院薬学研究科	Keystone Symposia “Stem Cells, Cancer and Aging”	未受理
谷口 俊介	筑波大学大学院 生命環境科学研究科	Developmental Biology of the Sea Urchin XVIII	68
山田 和彦	物質・材料研究機構 ナノ計測センター	Gordon Research Conference “Computational Aspects- Biomolecular NMR”	69
由田和津子	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科	Plant Biology 2008	70

後期(10月～3月)

氏名	所属機関	学会名	頁
浅井理恵子	東京大学大学院医学系研究科	American Heart Association Scientific Sessions 2008	71
猪原 匡史	京都大学大学院医学研究科	Vas-Cog 2009 : The International Society for Vascular Behavioural and Cognitive Disorders	72
川崎 良	山形大学医学部	European Association for Vision and Eye Research (EVER) 2008	73
佐波 理恵	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所	Cold Spring Harbor Laboratory “Germ Cells”	74
高梨 琢磨	森林総合研究所	XIIth Invertebrate Sound and Vibration Meeting	75
高野 倫一	東京海洋大学大学院 応用生命科学専攻	Plant and Animal Genome XVII Conference	76
中川 俊徳	京都大学大学院医学研究科	Cold Spring Harbor Laboratory “Germ Cells”	77
西 裕志	東京大学大学院医学系研究科	Renal Week 2008, American Society of Nephrology	78
西原 秀典	東京工業大学大学院 生命理工学研究科	2nd International Conference/Workshop on Genomic Impact of Eukaryotic Transposable Elements	79
野地 智法	東京大学医科学研究所	2nd vaccine global congress	80
前田 礼男	東京理科大学基礎工学部	50th Annual Drosophila Research Conference	81
八幡 直樹	国立精神・神経センター 神経研究所	The 38th annual meeting of the Society for Neuroscience	82
林原絵美子	東京薬科大学薬学部	11th Western Pacific Congress on Chemotherapy and Infectious Diseases	83

IV. 平成20年度の財団の運営と組織

1. 設立趣意

21世紀に向けて、現代社会が有限な天然資源をもとに繁栄を持続するためには、バイオサイエンスとテクノロジーの継続的進歩と、それを活用する関連産業の発展が重要であることは言うまでもありません。

近年における生命科学はゲノムやプロテオーム科学などの先端技術や、それを駆使した細胞レベルの研究分野で日々激しい競争が展開されており、その進歩は目覚ましいものがあります。近い将来、わが国の研究がこれらの新しい分野で飛躍的な進歩を達成しうるならば、それは国内の社会経済の発展にも大きく貢献できるものと信じます。そのために、科学技術基本計画に基づき、総合的見地から国を挙げての各種生命科学の研究振興と人材育成が課題であり、その過程で生まれた創造的発明の早急な実用化が望まれます。また一方で、真に価値ある先駆的研究は、個性的で創造性豊かな研究者により、また既存の制約を超えた研究環境下で、粘り強い努力から生み出されるものと期待されます。

このような認識から、本財団はバイオサイエンスの分野で有能な研究者を全国に発掘し、その創造的研究に対して資金的支援を継続することは極めて有意義であるとし、財団設立以来微力ながらも研究の資金助成および国際交流、研究集会などの助成を鋭意続けてまいりました。さらには公開シンポジウムによるバイオサイエンスの啓蒙も重要な活動となっております。これらはわが国のバイオサイエンス研究が一日も早く世界的最高水準に達することを念願してのことです。

協和発酵工業株式会社は、バイオテクノロジーと有機合成化学などの技術を基盤に広く産業活動を展開しております。同社の創設者である加藤辨三郎は企業活動の発展をめざすと共に科学技術の振興によって社会の発展と人類の福祉への貢献を同社の経営理念としておりました。加藤翁は昭和58(1983)年8月に永眠いたしました。40年余におよぶ会社経営の他に、わが国の多くの科学技術委員会などに関与した体験を通してバイオサイエンス振興の一層の必要性を強調いたしておりました。

こうした加藤翁の遺志を生かし、また総合的で領域横断的観点からバイオサイエンス研究振興の重要性を認識した協和発酵工業株式会社は、同社の創立40周年の記念事業として、昭和63(1988)年12月、財団法人加藤記念バイオサイエンス研究振興財団を設立いたしました。

2. 目 的 (寄附行為第3条)

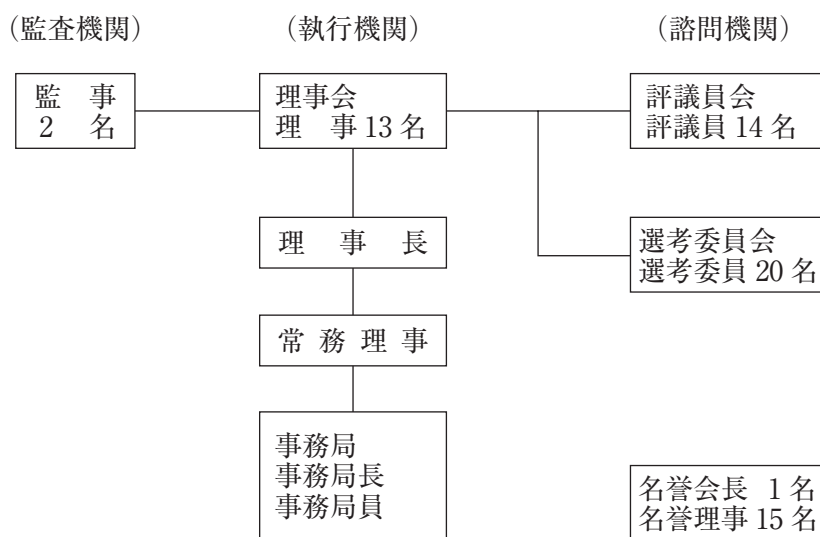
この法人は、バイオサイエンスの分野における研究者に対する助成ならびにシンポジウム・研究会の開催・助成を行なうことにより、科学技術の振興をはかり、もって社会経済の発展に寄与することを目的とする。

3. 事 業 (寄附行為第4条)

この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

- (1) バイオサイエンスおよびこれに関連する分野における研究者に対する助成
- (2) バイオサイエンスおよびこれに関する分野における研究者の国際交流の助成
- (3) バイオサイエンスおよびこれに関する分野におけるシンポジウム・研究会の開催および助成
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

4. 組 織 (平成20年4月1日現在)



5. 財団の概要

名 称	財団法人 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 Kato Memorial Bioscience Foundation
設立許可日	1988年12月23日
主務官庁	文部科学省
特定公益増進法人許可	2007年11月28日更新
基本財産	7億6百万円
出 捐 者	協和発酵工業株式会社 (平成20年10月1日より協和発酵キリン株式会社) 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル) URL : http://www.kyowa-kirin.co.jp

6. 平成20年度助成事業 募集概要

(1) 第20回研究助成

助成対象	バイオサイエンスの基礎分野において、独創的且つ先駆的研究をめざす国内の若手研究者。但し、学生、大学院生、本助成金受領後3年を経ない研究者および当財団の選考委員と同一研究室に所属する研究者は対象外とする。
助成対象 研究と 応募年齢	「研究助成」 バイオサイエンス研究分野を、①“メディカルサイエンス分野”と、②“バイオテクノロジー分野”に区分して募集する。応募年齢は男性は40歳以下、女性は45歳以下を対象とする(応募期限8月31日現在満年齢)。 「奨励研究」 バイオテクノロジー分野において領域を指定して募集する。応募年齢は男性は35歳以下、女性は40歳以下を対象とする(同上)。
応募方法	公募。当財団所定の申込書に必要事項を記入の上、所定の推薦書を添えて当財団へ申し込む。
応募期間	6月上旬より募集を開始し、8月31日を応募締切とする。
助成金 交付時期	3月31日までに交付する。

(2) 加藤記念財団創立20周年記念特別研究助成 (平成20年度のみ募集)

助成趣旨	バイオサイエンス分野では基礎研究の成果が具体的応用段階に至り難い状況があり、特に臨床研究においては幅広い支援が望まれている。
助成対象研究	研究課題を「癌分野における基礎研究から臨床への橋渡し研究」と指定して募集する。応募年齢制限は設けない。
応募方法	学会推薦(日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会)と公募の2通り。ただし、選考は学会推薦の有無に関わらず全応募者を対象に行う。当財団所定の申込書に必要事項を記入の上、所定の推薦書を添えて当財団へ申し込む。
応募期間	6月上旬より募集を開始し、8月31日を応募締切とする。
助成金交付時期	3月31日までに交付する。

(3) 第20回国際交流助成

助成対象	海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウムに発表予定の35歳(医歯学系卒業生は37歳)までの国内の若手研究者。
応募方法	公募。当財団所定の申込書に必要事項を記入の上、所定の推薦書を添えて当財団へ申し込む。
応募期間	4月1日から募集を開始。前期(4月1日～9月30日)の期間に発表される方は、5月31日締切。後期(10月1日～翌年3月31日)の期間に発表される方は、8月31日締切。
助成金交付時期	前期：7月中(選考会6月) 後期：10月中(選考会9月)

(4) 学会等の開催助成

助成対象	バイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等の開催費用の助成。但し、原則として1,000人以下の規模を対象とする。
応募方法	当財団理事または評議員の推薦による。

(注) 平成21年度募集要項および最新情報については財団ホームページをご参照下さい。

特に助成申請を検討されている方はご注意ください。

URL : <http://www.katokinen.or.jp>

7. 平成20年度財団役員等

理事長	平田 正	協和発酵工業(株)相談役
常務理事	高橋 充	協和発酵工業(株)嘱託
理事	大塚 榮子	北海道大学名誉教授
	大村 智	(学)北里研究所名誉理事長 北里大学名誉教授
	岡田 吉美	東京大学名誉教授
	小田 鈞一郎	元 東京大学医科学研究所癌ウイルス部教授
	折茂 肇	健康科学大学学長
	香川 靖雄	自治医科大学名誉教授 女子栄養大学副学長
	岸本 忠三	前総合科学技術会議議員 大阪大学大学院生命機能研究科教授 (財)千里ライフサイエンス振興財団理事長
	木村 光	京都大学名誉教授 (株)グリーンバイオ代表取締役
	高久 史麿	東京大学名誉教授 自治医科大学学長
	別府 輝彦	東京大学名誉教授 日本大学大学院総合科学研究科教授
	森 謙治	東京大学名誉教授
監事	伊藤 醇	公認会計士
	樋口 節夫	公認会計士 新日本監査法人監査一部代表社員
評議員	小川 秀興	順天堂大学理事長
	垣添 忠生	国立がんセンター名誉総長
	勝木 元也	基礎生物学研究所名誉教授 自然科学研究機構理事
	北原 武	東京大学名誉教授 帝京平成大学薬学部教授 (学)北里研究所・北里大学客員教授
	郷 通子	お茶の水女子大学学長 総合科学技術会議議員
	榊 佳之	豊橋技術科学大学学長
	谷口 維紹	東京大学大学院医学系研究科教授
	鶴尾 隆	(財)癌研究会・癌化学療法センター所長
	永井 良三	東京大学大学院医学系研究科教授
	長澤 寛道	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	長田 重一	京都大学大学院医学研究科教授
	西川 伸一	(独)理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長
	三品 昌美	東京大学大学院医学系研究科教授
	柳田 敏雄	大阪大学大学院生命機能研究科教授
選考委員長	山本 一彦	東京大学大学院医学系研究科教授
副選考委員長	山根 久和	東京大学生物生産工学研究センター教授
選考委員	一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科教授
	内海 成	京都大学大学院農学研究科教授
	加藤 茂明	東京大学分子細胞生物学研究所教授
	久保田紀久枝	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授

後藤 由季子	東京大学分子細胞生物学研究所教授
五味 勝也	東北大学大学院農学研究科教授
阪井 康能	京都大学大学院農学研究科教授
坂口 志文	京都大学再生医科学研究所教授
清木 元治	東京大学医科学研究所所長
瀬原 淳子	京都大学再生医科学研究所教授
戸井 雅和	京都大学大学院医学研究科教授
難波 啓一	大阪大学大学院生命機能研究科教授
畠 清彦	(財) 癌研究会・有明病院化学療法科兼血液腫瘍科部長
畠山 昌則	北海道大学遺伝子病制御研究所教授
福山 透	東京大学大学院薬学系研究科教授
間野 博行	自治医科大学ゲノム機能研究部教授
水澤 英洋	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
依田 幸司	東京大学大学院農学生命科学研究科教授

名 誉 職

名 誉 会 長	木下 祝郎	協和発酵工業(株) 元会長
名 誉 理 事	池原 森男	大阪大学名誉教授
	伊藤 正男	東京大学名誉教授 (独) 理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問
	井上 一郎	東京工業大学名誉教授
	大澤 利昭	東京大学名誉教授 東京薬科大学名誉教授
	小関 治男	京都大学名誉教授
	清水 喜八郎	光仁会病院顧問
	白砂 信善	公認会計士
	菅野 晴夫	(財) 癌研究会顧問
	中嶋 暉躬	東京大学名誉教授 星薬科大学学長
	中村 寛之助	協和発酵工業(株) 元会長
	早石 修	京都大学名誉教授 (財) 大阪バイオサイエンス研究所理事長
	藤卷 正生	東京大学名誉教授 お茶の水女子大学名誉教授 (財) 食生活研究会理事長
	松井 正直	東京大学名誉教授
	水野 傳一	東京大学名誉教授
	山田 秀明	京都大学名誉教授 富山県立大学名誉教授

事 務 局

事 務 局 長	落合 恵子	平成20年10月31日まで
	江口 有	平成20年11月1日から
事 務 局 員	奥村 美香	

所属及び役職は平成20年4月1日 現在

おわりに

事務局長 江口 有

平成20年11月から事務局長を仰せつかりました江口と申します。前任の落合と同様、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

私が旧協和発酵に入社した20数年前には既に加藤辨三郎翁はお亡くなりになっていましたが、財団と同じ敷地で10年以上過ごすことができました。これまで研究助成贈呈式には数回参加しましたが、たまたま親しい方が助成を受け、式の後に当時の選考委員長の研究室に招待されて一緒に祝ったことなどを思い出します。

さて平成20年度の事務局トピックスは、創立20周年記念行事、公益法人制度改革対応、広報・経理体制見直しなどでした。創立20周年記念式典準備では、招待状の発送のため、400名を越す歴代助成者の現所属の確認を行ないました。どの先生もご活躍されており、歴代選考委員の慧眼に改めて敬意を表したいと思います。また資料の山の中に保管されていた財団旧役員直筆のお手紙なども拝見し、ご高名な先生方が熱心に財団活動を支えておられていることに頭が下がる思いでした。式典当日は事務局はバタバタしてしまいましたが、皆様方のおかげで盛大な会をなんとか無事終了することができてほっとしています。

本年報もお蔭様で第10号となりました。財団20周年の節目でもありますので、今回表紙を新しくしました。財団ゆかりの加藤記念バイオサイエンス研究所(東京都町田市)の建物を基にデザインしています。公開セミナー、研究助成贈呈式、いずれも第一回目はこの建物で開催されました。なお、年報の内容も広報の視点で工夫を加えました。また研究助成贈呈式の報告の多くは20周年記念誌に譲り、年報での記載は若干少なくなっています。

これまでの20年間の蓄積を宝に、今後ともわが国のバイオサイエンスの発展にいささかでも貢献できるよう努力したいと思います。皆様方には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

編集後記

平成20年4月1日、事務局員として着任致しました。「記念式典の成功、記念誌の完成、さらに新公益法人移行の完了、この3つが目標です。」と言われること早1年半、今2つめのハードルを汗水流し跨いでいる真っただ中です。ここは3人所帯。様々な方面からサポート頂くHPの維持や年度末決算なども、一層の実務習得を目指し、東奔西走しながらも1歩ずつ積み重ねています。

3月の20周年記念式典では、著名な先生方の講演を拝聴している時間にも「音声が録音できない」「先生への水が足りない」「座席案内表が2列ずれている」といったあちこちからのささやきに、厳かな会場を走り回っておりました。貴重な経験の中で支えて下さる人の暖かさを実感することができ、お越し頂いた様々な分野の先生方、お手伝い下さった方々へ、改めて感謝を申し上げます。

この夏は記念誌作成が佳境に入りました。まずは20年分の資料の整理。蜘蛛の巣に絡まりながら地下倉庫への探検を開始、何十個ものダンボール箱発掘はインディージョーンズ顔負けの作業でした。懐かしい方々の若かりし写真、シンポジウムでの発表風景、当時が伝わってくるような直筆メモ。重なる20年の歴史を1枚のキャンバスに描き写す、そんな充実した時間を駆け抜けました。いまだ未熟な事務局員ではありますが、これからも精進していく決意をもって末筆のご挨拶とさせていただきます。

(事務局 奥村 美香)

(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 平成20年度 年報(第10号)

発行日	2009年10月1日
発行者	理事長 平田 正
編集者	常務理事 高橋 充 事務局長 江口 有
発行所	財団法人 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 Kato Memorial Bioscience Foundation 〒194-8533 東京都町田市旭町3-6-6 電話：042-725-2576 ファックス：042-729-4009 メール：ben.kato.zaidan@kyowa-kirin.co.jp ホームページ：http://www.katoken.or.jp
印刷	芝サン陽印刷株式会社 〒104-0033 東京都中央区新川1-22-13
